

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

酪農学園大学（以下、本学）は、日本の食料基地である北海道の江別市に位置し、昭和8（1933）年に創設された北海道酪農義塾を起源として、昭和35（1960）年に開学し、建学の精神である「三愛主義（神を愛し、人を愛し、土を愛する）」のもと、酪農を中心とした農業後継者及び農業支援者教育を展開するとともに、「循環農法」及び実学教育による「健土健民」思想をわが国の農業のあるべき姿として、酪農・畜産における生産技術の革新に貢献し、農業自営者をはじめ多くの有能な人材を社会に送り出してきた。また、本学は知識と実践は一体であることを意味する「知行合一」の教育を重視しており、知識の習得のみならず、それを実践する力を育む教育を展開している。

本学の創設者である黒澤西蔵は、現在のSDGsに通じる考え方として、「循環農法」や「健土健民」を提唱し、健全な土壌が健全な食と生命を育むという理念のもと、持続可能な農業の実践と教育を推進するとともに、資源の循環と環境との調和を重視してきた。この理念は、今日の持続可能な社会の実現に向けた取り組みとも合致し、本学の教育・研究活動に引き継がれている。

本学は現在、農食環境学群（3学類）、獣医学群（2学類）の2学群5学類を設置する農学・獣医学系大学として複数分野の教育研究を展開しているが、専門知識と技術を身につけた教員養成にも力を入れており、中学校理科・社会科及び高校農業科・理科・公民科の教員を養成するために、農食環境学群の3学類（循環農学類、食と健康学類、環境共生学類）に教職課程を設置し、多くの教職員を輩出している。

これらの教育を通じて、本学は、「農・食・環境・生命」を基軸に自然との調和の取れた循環農業の維持・発展を図り、人と動物の生命の存続と福祉に貢献し、持続可能な社会の発展に貢献する人材を育成している。

【大学 ディプロマ・ポリシー】

建学の精神である「三愛主義」「健土健民」のもと、「農・食・環境・生命」の各分野における豊富な知識や高い実践能力を備え、視野の広い専門家として地域と世界の継続的な発展に貢献できる学生に「学士」の学位を授与します。

【教員養成の理念】

- ・農学や環境学、情報科学の専門的な知識と技能を習得し、食料問題や気候変動といった現実の社会課題を解決へと導く、実践的な教育者の養成
- ・循環農法など持続可能な生産システムを深く理解し、農や食の生産現場と消費現場が一体となった持続可能型社会の形成に貢献できる教員の育成
- ・フィールドワークを通じて農や食の生産現場での実践的な知識を獲得し、その学びを教育に活かすことで、地域や社会の課題解決に貢献できる実践的な教員の育成
- ・農業という基盤を持ちながら、社会科学と自然科学の両分野を横断的に捉える力を養い、専門分野を広く総合的な知見で教育をデザインできる教員の育成

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

世界的な人口増加と気象変動など私たちの社会が抱える課題・問題は複雑化・多様化しており、SDGs や脱炭素社会への地球規模での対応が重視され、一層の食料供給の安定化と環境に配慮した持続可能な食料システムの構築と社会システムの変革が急務となっている。

日本国内においては、人口の減少と少子高齢化の進行により、持続可能な社会の実現のための社会構造や産業構造の変化が必要とされている。安定した食料供給のためには、食料・農林水産業の生産力の向上と持続性の両立が求められるが、日本国内においては、第1次産業従事者の高齢化に伴う担い手不足に加えて、気候変動の深刻化、野生動物の生息環境の変化によって様々な課題を抱える状況にある。

このような課題に対応して、スマート技術を活用した効率的な農業生産、農産物の高付加価値化、都市と農村のつながりの強化、環境負荷の低減、バイオマスなどの地域資源の活用、野生動物の適切な生息地管理と人間社会との共生システムの構築など、「持続可能な地域社会」の形を創造し、実現することが必要である。そのためには、農・食・環境の分野をベースとした地域振興を推進できる「地域をイノベーションする人材」の養成が求められている。

持続可能な地域社会を創造するためには、膨大なデータを価値ある「情報」へと変換し、それを適切に活用することが不可欠である。情報技術の進展に伴い、農業、環境、地域社会のさまざまな分野では、日々膨大なデータが蓄積されている。しかし、それらを有効に活用できなければ単なる「情報過多」となり、課題の発見及び解決には結びつかない。それゆえ、データの収集・分析、その結果の可視化を通じて、現状の課題を的確に把握し、持続可能な社会の実現に向けた新たな方策を導き出すことが求められている。特に農業や環境分野では、自然環境の変動、生産効率の向上、地域資源の有効活用といった課題に対し、柔軟かつ斬新なアプローチがますます重要になっている。

今回新設する農環境情報学類では、こうした時代の要請に応えるため、さまざまなデータを価値ある情報へと変換し、それを地域社会の発展に活かせる人材を育成する。本学類での学びを通じて修得した知識・技能・姿勢は、単なる ICT（情報通信技術）や DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入にとどまらず、既存技術の枠にとらわれない視点で情報を活用した技術の「再考（再発見）」を促す。また、新たな地域資源の掘り起こしや地域課題の解決にも積極的に取り組む力を養う。これにより、持続可能な地域社会の新たな形を創造し、次世代を支える農業・環境・地域社会の発展に寄与することを目指している。

【農環境情報学類 ディプロマ・ポリシー】

農環境情報学類では、「農・食・環境・生命」の繋がりを理解し、以下の能力を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

1. 建学の精神である「三愛主義」「健土健民」を基に、人文・社会・自然科学の知識と倫理観を養い、多様な価値観を尊重し、持続可能な社会の実現に貢献できる。
2. 農環境や地域社会を取り巻く現状への深い理解及び十分な知識を有する。
3. 地域社会、特に農業分野における経済や社会システムを農学的視点と農学の専門知識・技術によって調査・分析、情報解析できる。
4. 農業や環境を含む地域社会の振興に必要な計画を立案できる。
5. 農業や環境を含む地域課題に対する自らの考えや判断の根拠を説明するためのプレゼンテーション及びコミュニケーション能力を有する。
6. 発見した課題の解決に向けて、他者と協働し、主体的に取り組むことができる。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

上記(1)－①の「教員養成の理念」は、農業科、理科、社会(公民)科の教育実践を通じて、北海道をはじめとする日本の農業発展に寄与し、適切な社会認識ができ、経済や生活などのさまざまな社会的課題解決に貢献できる実践的な力をもった教員の養成を目指していることを表しており、本学においては、教員として身につけるべき共通する具体的な力を以下のとおり設定している。

1. 教育者としての資質を持ち、責任ある態度、適切な判断力を身につけること
2. 教育者としての誇りを持ちながら、周囲からの信頼を得る力を身につけること

以上の力を、本学の実践的な農学教育並びに社会科学・自然科学両分野を俯瞰した教育展開を通じて身につけさせるため、教職課程教育科目のほか、関連科目に以下の科目を配置する。

ア. 建学の精神と農食環境学群教育を理解し、社会に貢献するための基礎力と持続可能な社会の構築に向けた知識と視点を養う科目

「健土健民・農食環境学入門実習」「建学の精神と農食環境学概論」

イ. 討論を通じて自分の考えを明確にし、他者に効果的に伝える技術の修得及び研究論文をまとめる訓練を通して、実践的な課題解決に向けたスキルを総合的に養う科目

「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」

②学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

本学類は、農業を取り巻く課題(高齢化や働き手の減少、農業の生産性向上、環境への配慮、農産物の高付加価値化など)を解決し、人と自然の共生を基にした持続可能な地域社会を実現するには、農学・経済学・環境学・情報学についての文理融合の学びが不可欠であると考え、農学・経済学・環境学・情報学を広く学びつつ、次の2つの専門領域のコースを配置する。

1) アグリデザイン領域

情報を活用して地域と農業をデザインできる人材を養成する。さまざまなフィールドにおいて、農学及び経済学、情報学の学びを通して、地域社会における農業・食料・農村の役割を学ぶことで、コミュニケーション手法によって情報を収集し、農業・食料・農村の実態を把握し、農業経営や地域農業の特徴を分析、その情報を活用しながら現場との密接なコミュニケーションを図り、地域社会の振興方策を企画・提案することができる人材を養成する。

2) 地域データサイエンス領域

地域の問題を主体的に解決できるデータサイエンティストを養成する。さまざまなフィールドにおいて、農学及び環境学・情報学の学びを通して、地域の情報を収集・分析・活用するテクノロジーとその活用について学ぶことで、先端技術によって環境に関する実態を把握することができ、画像解析や数理的な分析により結果と問題を可視化し、その情報をもとに現場との密接なコミュニケーションを図り、地域課題を解決する方策を企画・提案することができる人材を養成する。

すなわち、本学類の教育研究分野は、農業経済学・農業工学・環境学をベースとし、応用情報学の分析方法ツールを活用し地域課題の解決を図ることを目指した文理融合の専門分野である。基幹教員は、農業工学分野、数理情報分野、空間情報分野のほか、農業経済学を専門とした地域社会分野、農業経営分野、マーケティング分野、経済統計分野の教員が配置され、教育研究を行う。このような文理融合の学びを展開する本学類では、その教育研究内容の学際性が

ら「高等学校農業科」及び「中学校社会科」・「高等学校公民科」の教職課程を展開する。これは、専門分野が農学や環境データの分析といった科学技術に関する知識の習得だけでなく、食料問題や環境問題、地域創生といった社会全体に関わる課題を扱うためである。この2種類の教員免許状を取得できるプログラムがあることには、以下の3つの大きなメリットがあると考ええる。

- 1) 専門分野の学びで培われる思考力と社会分析能力が融合することで、テクノロジーと社会課題の両方を理解し、解決策を提案できる人材を育成することができる。
- 2) 農業・農村や地域社会が抱える具体的な課題について、GIS（地理情報システム）などの実際のデータを通して学ぶことで、学生は教壇に立った際に、それらを生徒にとって身近な話題として提供し、生徒の主体的な学びを促す実践的な教員を育成することができる。
- 3) 農学と情報学、社会科学の専門性を兼ね備えることで、研究者やエンジニアを目指すだけでなく、農業の振興や地域創生、SDGs教育に対応できる教育者として、学生のキャリアパスを広げることができる。

また、本学類での教育の本質は「実際の社会と結びつけて考える力を育てること」と定義した上で、次の力を身につけた教員を養成する。

1. 農学、環境学、情報科学の専門的な知識を、食料問題や地域創生といった社会全体が直面する課題の解決に結びつける応用力
2. 複雑な社会現象を、自然科学と社会科学の両分野から多角的に分析し、その根本にある構造や本質的な問題を見抜く思考力
3. 農や食の現場でのフィールドワークを通じて、理論と現実の課題を結びつけ、その経験を教育に活かすことで、生徒の学びを社会貢献へとつなげる実践力

これらの力を、本学類の実践的な農学教育並びに社会科学・自然科学両分野を俯瞰した教育展開を通じて身につけさせるため、下記のカリキュラムになっている。

- a) 共通教育の科目として、語学等のほかに、「情報科学の基礎」、「統計学Ⅰ」、「経済学」を必修とする。また、農場等の実習内容が含まれる「健土健民・農食環境学入門実習」を必修とし、「学外農場実習」を選択科目とする。
- b) 学群専門教育として、「畜産学総論」「土壌学」「作物生産学」などの農学分野、「野生動物と社会」「動物生態学」「植物生態学」「気象学の基礎」などの環境学分野、「マーケティング論」「食品産業論」「食品流通論」などの食品分野の科目を配置し、12単位以上の修得を課す。
- c) 専門科目のうち、2つの領域の基礎とした分野として、「GISリモートセンシングの基礎」などの情報分野のほか、「資源リサイクルと環境保全」「再生可能エネルギー入門」などの環境分野、「農畜産物市場論」「農業協同組合論」「アグリビジネス論」などの農学分野、「経済学基礎理論」「経済原論」「経営学入門」「社会調査法」などの経済学分野の必修科目30単位を配置し、関連した選択科目から9単位以上の修得を課す。
- d) 応用科目として、アグリデザイン領域、地域データサイエンス領域の科目を選択必修科目として配置する。

このように、農学・経済学・環境学・情報学を学び、これらをベースとしたアグリデザイン領域、地域データサイエンス領域の学びを展開する構成となる。なお、本学類で開設する教職課程の「教科に関する専門的事項の科目」のうち、「高等学校農業科」11単位、「中学校社会科」「高等学校公民科」10単位が、教員免許状の取得に関係なく学類の必修科目として設定している。さらに、b)、c)、d)の選択・選択必修科目の多くが「高等学校農業科」もしくは「中

学校社会科」「高等学校公民科」の「教科に関する専門的事項の科目」もしくは関連科目である。

教職課程教育科目のほか、特徴的な関連科目として以下の科目を配置する。

ア. 地域社会の構造と変動について、社会経済学的アプローチにより把握し、地域課題や地域の将来像を考え、大学による地域連携の役割について学ぶ科目

「地域連携論」

イ. 農環境情報学の構成要素である「アグリデザイン」及び「地域データサイエンス」の解説を通して、協同組合や市場対応、また、地域連携活動などへ影響を与える農業政策や法律、及び数理情報、空間情報、経済や農業工学の各分野とデータサイエンスの関連を学ぶ科目

「農環境情報学概論Ⅰ・Ⅱ」

本学類で教員を志望する学生たちは、上記の科目を修めることで、地域社会と密接に関わりながら、農業と地域の課題を適切に把握し、情報の活用及び地域課題の解決に貢献できる実践力と分析能力を高めていくこととなる。

本学類は「高等学校農業科」のほか、「中学校社会科」及び「高等学校公民科」の教職課程を設置するが、これは、現代の社会科・公民科教員に求められている力（授業展開）が、「単に知識を教えるのではなく、生徒自身が社会と自分の関係を意識し、さまざまな課題に対して主体的に考えることができる授業の展開力」であり、それが実践できる教員を養成することが求められていることに起因している。「自分達の食べ物はどこでどのように生産されているか」や「地域産業と経済の関係」など、農業を通じて地域社会とのつながりを意識させることができる社会科・公民科教員の養成は、本学類だけが達成できる特殊性を持っており、文理融合の新しい学びを修めた教員の活躍が期待される。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

本学類では、地域社会とそれに関わる情報を重視した教育を展開していくが、その一環として、地域の実情を理解し、社会や経済、農業の仕組み、環境問題を深く考える力を育む上で重要な役割を果たす「中学校社会科」、「高等学校公民科」及び「高等学校農業科」の教職課程を設置し、地域社会が直面する課題に対応できる教員、また、地域社会の課題に対応できる人材の育成ができる教員の養成を目指すこととした。

本学類のディプロマ・ポリシーでは、農業・環境・地域社会の現状を理解し、専門知識を活かして課題を調査・分析する能力や、地域振興に向けた計画を立案する能力の育成を掲げている。これらの学びは、単に地域課題の解決に貢献するだけでなく、社会科・公民科・農業科の教育現場でも活かすことができる。具体的には、農業の現状や農村における課題、環境問題は一般の地域社会が抱える課題であり、これらを実際のデータを用いて授業で取り扱うことで、生徒がより身近な問題として捉え、主体的に学ぶ機会を提供できるものと考えている。

また、情報技術の活用も重要なポイントであり、データを基に地域社会や経済の動向を分析し、その知見を教育に応用することで、より実践的な学びが実現できる。さらに、大学と地域の小中学校・高校が連携し、フィールドワークやプロジェクト学習を通じて、学生が現場での学びを深める機会を増やすことも可能となる。

本学類への教職課程の設置は、地域社会に貢献できる教員を育成することにもつながり、卒業生が地域の中学校・高校で教壇に立ち、持続可能な社会の実現や農業の発展、関連産業の振

興や経済の活性化などに向けた教育を行うことで、次世代の地域づくりを担う人材の育成にも寄与していくものと考えている。

本学類における校種・免許教科別に履修モデルを示す。この履修モデルは、履修ガイダンス時に配布・明示するとともに、「教職課程履修の手引き」にも掲載予定であり、学生は教職課程の履修の仕組みを具体的に理解することができる。なお、選択科目については、学生の目的に応じ、他の科目を選択することも可能であるが、本モデルを学生に示すことで、専門性と取得を目指す免許状に関連した科目の履修を促し、学生がより専門分野と教職科目について体系的に学ぶことができるものと考えている。

【中学校教諭一種免許（社会）】

中学校社会科では、「地理」「歴史」「公民」の3分野を通じて、社会の仕組みや歴史の変遷を学ぶ（教授する）ことになる。そこで、本学類の中学校教諭一種免許（社会）の免許状の修得を目的とする学生のための履修モデルでは、「地理学」「日本史」「世界史」「経済学」等の基礎科目を修得し、本学類の経済学分野の専門科目である「食品産業論」「日本経済論」「社会調査法」などを修得する内容となる。これらの学びは、公民科の内容にも関連するとともに、地域ごとの地理的条件、歴史的背景などの社会条件を関連付けて学ぶ。さらに関連する応用科目の学びにより、農学・経済学・環境学・情報学の知識だけではなく、北海道という農業・環境の先進地としてのフィールドを活用して、実践的な学びに重きを置く本学類を卒業した教員は、地理的条件、歴史的背景などの社会条件を踏まえ、地域の環境や産業、経済、社会の変化を具体的な事例として授業に取り入れることにより、その生徒は地域の現実をより深く理解し、持続可能な社会について考える力を育むことが可能となる。

○教職課程教育科目以外の関連科目

「地域経済論」「地域計画論」：日本の経済政策と地域経済の動向から、さまざまな課題解決策を考えるほか、地域計画の歴史や理論を理解し、計画策定に向けた調査方法や統計資料の活用方法を学ぶ。

「GIS リモートセンシング基礎」「GIS 基礎演習」「GIS 応用演習」「リモートセンシング基礎演習」「環境モニタリングとリモートセンシング」：地理情報システムに関する知識や活用方法について学ぶ。自然環境・動植物の生態等の自然地理学の分野、及び土地利用、産業、人口の変化等の人文地理学、社会学の分野の知識を応用する。

「農畜産物市場論」「農業協同組合論」「アグリビジネス論」「農業資源経済学」「農業政策学Ⅰ」「農業政策学Ⅱ」「農村社会学」「農業市場論」「協同組合学」：土地制度や食料政策、農村社会、経済政策と地域経済の動向、農業に関連した産業の動向など、歴史的背景や地理的条件等も踏まえ、地域が抱えている問題の発生要因とその実態、先進的な施策の効果を検証しながら、さまざまな課題解決策を考える。経済学と関連した農学の応用分野であり、地理学、歴史学も関連する。

「野生動物と社会」：野生動物と人間の共存に関する課題や、被害防止対策、地域社会との協力方法、法的規制や政策の役割について学ぶ。環境学の応用分野であり、公民科のみならず、地理学、歴史学も関連する。

これらの関連科目の学びにより高度な専門性と実践的な指導につながる知識を得られることが可能となる。専門ゼミナール、卒業研究においても空間情報分野、地域社会分野、農業経営分野、マーケティング分野、経済統計分野の教育研究分野の研究室も配置する。

【高等学校教諭一種免許（公民）】

高等学校公民科では、「公共」「倫理」「政治・経済」などの科目を通じて、社会の成り立ちや現代の課題について学ぶ（教授する）ことになる。そこで、本学類の高等学校教諭一種免許（公民）の免許状の修得を目的とする学生のための履修モデルでは、「法学」「経済学」等の基礎科目を修得し、本学類の経済学分野の専門科目である「マーケティング論」「食品産業論」「国際経済論」などを修得する。さらに関連する応用科目や実験・実習や演習を通じて、農学・経済学・環境学・情報学の理論と実践の融合を図る学びを修め、本学類を卒業した教員は、持続可能な農業、地域経済や農村社会並びに環境政策、デジタル技術を活用した地域課題の解決策を公民科の授業に応用することができ、また、地域と連携したプロジェクト学習を実施することで、生徒がより主体的に社会問題と向き合う機会を提供できる。

○教職課程教育科目以外の関連科目

「地域経済論」「地域計画論」：日本の経済政策と地域経済の動向から、さまざまな課題解決策を考えるほか、地域計画の歴史や理論を理解し、計画策定に向けた調査方法や統計資料の活用方法を学ぶ。

「農畜産物市場論」「農業協同組合論」「アグリビジネス論」「農業資源経済学」「農業政策学Ⅰ」「農業政策学Ⅱ」「農村社会学」「農業市場論」「協同組合学」：土地制度や食料政策、農村社会、経済政策と地域経済の動向、農業に関連した産業の動向など、歴史的背景や地理的条件等も踏まえ、地域が抱えている問題の発生要因とその実態、先進的な施策の効果を検証しながら、さまざまな課題解決策を考える。経済学と関連した農学の応用分野である。

「野生動物と社会」：野生動物と人間の共存に関する課題や、被害防止対策、地域社会との協力方法、法的規制や政策の役割について学ぶ。環境学の応用分野である。

「GIS リモートセンシング基礎」「GIS 基礎演習」「GIS 応用演習」「リモートセンシング基礎演習」「環境モニタリングとリモートセンシング」：地理情報システムに関する知識や活用方法について学ぶ。自然環境・動植物の生態等の自然地理学の分野、及び土地利用、産業、人口の変化等の人文地理学、社会学の分野の知識を応用する。

これらの関連科目の学びにより高度な専門性と実践的な指導につながる知識を得られることが可能となる。専門ゼミナール、卒業研究においても空間情報分野、地域社会分野、農業経営分野、マーケティング分野、経済統計分野の教育研究分野の研究室も配置する。

【高等学校教諭一種免許（農業）】

高等学校農業科では、農業技術や経営、環境保全などの専門知識を学び（教授し）、実践的なスキルを身につける必要がある。そこで、本学類の高等学校教諭一種免許（農業）の免許状の修得を目的とする学生のための履修モデルでは、「学外農場実習」「農業経営学」「畜産学総論」「作物生産学Ⅰ」「園芸生産学Ⅰ」「乳肉科学」等、本学類の農学分野の専門科目を修得する。本学類において、農業DXやデータサイエンスを活用し、地域の農業生産の効率化や環境負荷の軽減について実践的に学んだ教員は、生徒に対して最新の農業技術や持続可能な農業のあり方を指導することが可能となる。

○教職課程教育科目以外の関連科目

「農業資源経済学」「バイオマス技術入門」：経済学の基本理論を活用して、限られた土地やその他の希少資源の利用に起因する農業問題を学ぶ。また、動植物由来の有機資源である

バイオマスを熱やガスなどの人間生活に役立つものに変換する技術の必要性を理解し、その多様性と利用技術の現状を体系的に学ぶ。

「協同組合学」「地域連携論」「簿記・会計演習」：アグリデザイン領域の専門分野の応用科目で、協同組合、農山村再生の糸口となる地域連携について考える。経済学と関連した農学の応用分野である。

「リモートセンシング基礎演習」「環境モニタリングとリモートセンシング」：地域データサイエンス領域の専門分野の応用科目で、リモートセンシングを活用した土地被覆分類や土地利用の変化抽出、環境の長期変動把握など、自然地理学、人文地理学、社会学に関連する農学・環境学の応用分野である。

これらの関連科目の学びにより高度な専門性と実践的な指導につながる知識を得られることが可能となる。専門ゼミナール、卒業研究においても「高等学校農業」と関連した内容を扱う農業工学分野、空間情報分野、地域社会分野、農業経営分野、マーケティング分野、経済統計分野の教育研究分野の研究室がある。

以上のとおり、農学・経済学・環境学・情報学についての文理融合の学びを通して、社会科・公民科・農業科の各教員に求められる専門性を確保しつつ、地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成すること、また、このような学びを通じて、教育現場においても、生徒たちに持続可能な社会づくりに向けた意識を芽生えさせることを目標に掲げ、上記教育課程を設置するものである。

農環境情報学類 カリキュラム履修モデル (アグリデザイン領域+高校農業)

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数		
	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位			
共通教育	酪農学園導入教育(5)	○キリスト教Ⅰ	2	○キリスト教Ⅱ	2													5	
		○基礎演習	1																
	人文社会科学教育(6)	○経済学	2	○社会学	2														12
		○日本史	2	○法学	2														
		●日本国憲法	2																
		○地理学	2																
	自然科学教育(6)			○生物学	2	○統計学Ⅰ	2	○統計学Ⅱ	2									6	
	保健体育教育(2)	○●体育実技Ⅰ	1	▲体育実技Ⅱ	1														2
	情報教育(3)	○●情報処理基礎演習	1	○情報科学の基礎	2	●情報処理演習	1												4
	外国語教育(8)	○●英語Ⅰ	2	○●英語Ⅱ	2	○英語Ⅲ	2	○英語Ⅳ	2										8
キャリア教育(2)	○キャリア実習*	1	○キャリアベースック	1					○キャリアデザインⅠ	1								3	
全学共通教育					▲字外農場実習*	(4)												0	
学群専門導入教育(3)	○●修士課程・農畜環境学入門実習	1																3	
	○建学の精神と農畜環境学概論	2																	
専門教育	学群専門教育(12)			●畜産学総論	2	●土壌学	2	●乳肉科学	2	○食品流通論	2	▲乳用家畜学	2					16	
						●作物生産学Ⅰ	2	●園芸生産学Ⅰ	2	▲作物生産学Ⅱ	2								
						○マーケティング論	2												
	専門演習(8)									○専門ゼミナールⅠ	2	○専門ゼミナールⅡ	2	○卒業研究Ⅰ	2	○卒業研究Ⅱ	2		10
																	○研究発表	2	
	専門科目(40)	○農環境情報学概論Ⅰ	2	○農環境情報学概論Ⅱ	2	○経済学基礎理論	2	○農業資源経済学	2	○統計データ分析演習	1	○▲アグリビジネス論	2						41
		○GISリポート・セッション基礎	2	○経済原論	2	○経営学入門	2	○地域経済論	2	●農業経営学	2	▲酪農・畜産経営論	2						
		○▲資源リサイクルと環境保全	2	○▲再生可能エネルギー入門	2	○社会調査法	2	○バイオマス技術入門	2										
		○GIS基礎演習	1	○▲農畜産物市場論	2	▲農業機械・施設学	2												
				○▲農業協同組合論	2	○簿記・会計学基礎	2												
			○GIS応用演習	1															
応用科目	アグリデザイン領域(19)			◎▲農村社会学	2	◎▲農業政策学Ⅰ	2	◎▲農業市場論	2	◎▲地域計画論	2							19	
								◎▲農業政策学Ⅱ	2	◎▲営農システム論	2								
								◎協同組合学	2	◎▲アグリデザイン演習	1								
								◎地域連携論	2										
								◎簿記・会計演習	1										
								◎▲アグリデザイン実習	1										
教職科目	●教職入門	2	●教育原理	2	●特別支援教育論	2	●教育課程論	2	●特別活動論	2	●教育社会学	2	●教育実習(高1免)	3	●教職実践演習(中・高1免)	2		35	
			●教育心理学	2	●教育方法・ICT活用論	2	●教育相談論	2	●農業科教育法Ⅰ	2	●総合的な学習時間の指導法	2							
				●生徒・進路指導論	2			●職業指導Ⅰ	2	●農業科教育法Ⅱ	2								
								●職業指導Ⅱ	2										
修得単位数																			
共通教育科目(35)		19	14	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43		
専門科目(学群専門教育)(12)		0	2	6	4	2	2	0	0	2	4	10	16	16	16	16			
専門科目(専門演習)(8)		0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10		
専門科目(専門科目)(40)		4	7	11	10	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41		
専門科目(応用科目)(19)		0	0	2	2	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19		
小計		23	23	24	20	20	13	2	4	2	4	2	4	2	4	129			
合計		46	44	44	44	33	6	6	8	3	2	6	2	4	129				
教職科目		2	4	6	4	6	8	3	2	3	2	3	2	3	35				

※○必修科目、◎専門領域要修得科目、その他は選択科目、*は集中授業
 ※履修制限：1年次 年間48、半期26、2年次以降 年間46、半期24 ※字外農場実習、教職科目は履修制限対象外科目
 ※科目名にアンダーラインが付く科目(青の網掛)は、主要授業科目である。
 ※●は高校農業の免許状を取得するための必修科目、▲は高校農業の免許状を取得するための選択科目

農環境情報学類 カリキュラム履修モデル (地域データサイエンス領域+高校農業)

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数			
	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位				
共通教育	酪農学園導入教育(5)		○キリスト教Ⅰ	2	○キリスト教Ⅱ	2												5		
			○基礎演習	1																
	人文社会科学教育(6)	○経済学		2	法学	2													8	
		●日本国憲法		2																
		地理学		2																
	自然科学教育(6)	数学Ⅰ		2	数学Ⅱ	2	○統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2									10	
		生物学		2																
	保健体育教育(2)	○●体育実技Ⅰ		1	▲体育実技Ⅱ	1													2	
	情報教育(3)	○●情報処理基礎演習		1	○情報科学の基礎	2	●情報処理演習	1											4	
	外国語教育(8)	○●英語Ⅰ		2	○●英語Ⅱ	2	○英語Ⅲ	2	○英語Ⅳ	2									8	
キャリア教育(2)	キャリア実習*		1	○キャリアベースシック	1			○キャリアデザインⅠ	1									3		
全学共通教育					▲字外農場実習*	(4)												0		
学群専門導入教育(3)	○●健士健民・農畜環境学入門実習		1															3		
	○建学の精神と農畜環境学概論		2																	
専門教育	学群専門教育(14)			●畜産学総論	2	●土壌学	2	●乳肉科学	2	食品流通論	2	▲乳用家畜学	2					14		
						●作物生産学Ⅰ	2	●園芸生産学Ⅰ	2	▲作物生産学Ⅱ										
	専門演習(8)									○専門ゼミナールⅠ	2	○専門ゼミナールⅡ	2	○卒業研究Ⅰ	2	○卒業研究Ⅱ	2	2		
																	研究発表	2		
	専門科目(39)	○農環境情報学概論Ⅰ		2	○農環境情報学概論Ⅱ	2	○経済学基礎理論	2	○農業資源経済学	2	○統計データ分析演習	1	○▲アクリビジネス論	2						
		○GISリポートゼミナール基礎		2	○経済原論	2	○経営学入門	2	○地域経済論	2	●農業経営学	2	▲酪農・畜産経営論	2						
		○▲資源リサイクルと環境保全		2	○▲再生可能エネルギー入門	2	○社会調査法	2	バイオマス技術入門	2										
		○GIS基礎演習		1	○▲農畜産物市場論	2	▲農業機械・施設学	2	ポランティア活動・NPO・NGO論	2										
					○▲農業協同組合論	2														
						GIS応用演習	1													
アグリデザイン領域																		0		
応用科目	地域データサイエンス領域(18)					◎プログラミング入門	2	◎機械学習入門	2	◎画像解析AI演習	2	◎連携モーターリングとリモートセンシング	2							
						◎コンサルティング実務演習Ⅰ	2	◎コンサルティング実務演習Ⅱ	2	◎データサイエンス演習Ⅰ	2	◎データサイエンス演習Ⅱ	2							
							◎リモートセンシング基礎演習	2											18	
教職科目	●教職入門		2	●教育原理	2	●特別支援教育論	2	●教育課程論	2	●特別活動論	2	●教育社会学	2	●教育実習(高1・3)	3	●教職実践演習(中・高1免)	2	35		
		●教育心理学		2	●教育方法・ICT活用論	2	●教育相談論	2	●農業科教育法Ⅰ	2	●総合的な学習時間の指導法	2								
		●生徒・進路指導論		2				●職業指導Ⅰ	2	●農業科教育法Ⅱ	2	●職業指導Ⅱ	2							
修得単位数																				
共通教育科目(35)		19		14		5		4		1		0		0		0		43		
専門科目(学群専門教育)(14)		0		2		4		4		2		2		0		0		14		
専門科目(専門演習)(8)		0		0		0		0		2		2		2		4		10		
専門科目(専門科目)(39)		4		7		11		8		7		4		0		0		41		
専門科目(応用科目)(18)		0		0		4		6		4		4		0		0		18		
小計		23		23		24		22		16		12		2		4		126		
合計		46		46		46		46		28		6		2		4		126		
教職科目		2		4		6		4		6		8		3		2		35		

※○必修科目、◎専門領域要修得科目、その他は選択科目、*は集中授業
 ※履修制限：1年次 年間48、半期26、2年次以降 年間46、半期24 ※字外農場実習、教職科目は履修制限対象外科目
 ※科目名にアンダーラインが付く科目(青の網掛)は、主要授業科目である。
 ※●は高校農業の免許状を取得するための必修科目、▲は高校農業の免許状を取得するための選択科目

農環境情報学類 カリキュラム履修モデル (アグリデザイン領域+中学社会)

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数			
	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位				
共通教育	酪農学園導入教育(5)		○キリスト教Ⅰ	2	○キリスト教Ⅱ	2												5		
			○基礎演習	1																
	人文社会科学教育(6)		○●経済学	2	●世界史	2													14	
			●日本史	2	●法学	2														
			●日本国憲法	2	●哲学	2														
			●地理学	2																
	自然科学教育(6)				生物学	2	○統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2								6		
	保健体育教育(2)		○●体育実技Ⅰ	1	▲体育実技Ⅱ	1													2	
	情報教育(3)		○●情報処理基礎演習	1	○情報科学の基礎	2	●情報処理演習	1											4	
	外国語教育(8)		○●英語Ⅰ	2	○●英語Ⅱ	2	○英語Ⅲ	2	○英語Ⅳ	2									8	
キャリア教育(2)		キャリア実習*	1	○キャリアベースシック	1			○キャリアデザインⅠ	1									3		
全学共通教育						学外農場実習*	(4)											0		
学群専門導入教育(3)		○健康増進・農食環境学入門実習	1															3		
		○建学の精神と農食環境学概論	2																	
学群専門教育(12)				畜産学総論	2	土壌学	2	乳肉科学	2	▲食品流通論	2							12		
						作物生産学Ⅰ	2	▲食品産業論	2											
専門演習(8)										○専門ゼミナールⅠ	2	○専門ゼミナールⅡ	2	○卒業研究Ⅰ	2	○卒業研究Ⅱ	2	10		
																	研究発表		2	
専門科目(40)		○農環境情報学概論Ⅰ	2	○農環境情報学概論Ⅱ	2	○▲経済学基礎理論	2	○農業資源経済学	2	○統計データ分析演習	1	○アグリビジネス論	2					43		
		○GISリポート・シンキング基礎	2	○▲経済原論	2	○▲経営学入門	2	○地域経済論	2	農業経営学	2	酪農・畜産経営論	2							
		○資源リサイクルと環境保全	2	○再生可能エネルギー入門	2	○▲社会調査法	2													
		○GIS基礎演習	1	○農畜産物市場論	2	▲民法・商法	2													
				○農業協同組合論	2	▲行政学概論	2													
				▲日本経済論	2	▲簿記・会計学基礎	2													
				GIS応用演習	1															
				○農村社会学	2	○農業政策学Ⅰ	2	○農業市場論	2	○地域計画論	2									
								○農業政策学Ⅱ	2	○営農システム論	2									
								○協同組合学	2	○アグリデザイン演習	1									
応用科目		アグリデザイン領域(19)				○地域連携論	2											19		
						○簿記・会計演習	1													
		地域データサイエンス領域						○アグリデザイン実習	1											
教職科目		●教職入門	2	●教育原理	2	●特別支援教育論	2	●教育課程論	2	●特別活動論	2	●教育社会学	2	●教育実習(中・高1免)	5	●教職実践演習(中・高1免)	2	41		
				●教育心理学	2	●教育方法・ICT活用論	2	●教育相談論	2	●社会科・公民科教育法Ⅰ	2	●総合的な学習時間の指導法	2							
						●生徒・進路指導論	2	●地誌	2	●社会科教育法Ⅰ(地理歴史)	2	●道徳教育指導論	2							
										●社会科・公民科教育法Ⅱ	2									
										●社会科教育法Ⅱ(地理歴史)	2									
修得単位数																				
共通教育科目(35)		19	16	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45			
専門科目(学群専門教育)(12)		0	2	4	4	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	12			
専門科目(専門演習)(8)		0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10			
専門科目(専門科目)(40)		4	7	13	12	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43			
専門科目(応用科目)(19)		0	0	2	2	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19			
小計		23	25	24	22	18	11	2	4	2	2	2	2	2	2	2	129			
合計		48		46		29		6		10		5		2		2	129			
教職科目		2	4	6	6	6	10	5	2	2	2	2	2	2	2	2	41			

※○必修科目、◎専門領域要修得科目、その他は選択科目、*は集中授業
 ※履修制限：1年次 年間48、半期26、2年次以降 年間46、半期24 ※学外農場実習、教職科目は履修制限対象外科目
 ※科目名にアンダーラインが付く科目(青の網掛)は、主要授業科目である。
 ※●は中学社会の免許状を取得するための必修科目、▲は中学社会の免許状を取得するための選択科目

農環境情報学類 カリキュラム履修モデル (地域データサイエンス領域+中学社会)

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数				
	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位					
共通教育	酪農学園導入教育(5)		○キリスト教Ⅰ	2	○キリスト教Ⅱ	2												5			
			○基礎演習	1																	
	人文社会科学教育(6)		○●経済学	2	●世界史	2															
			●日本史	2	●法学	2															
			●日本国憲法	2	●哲学	2															
			●地理学	2																	
	自然科学教育(6)		数学Ⅰ	2	数学Ⅱ	2	○統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2									8		
	保健体育教育(2)		○●体育実技Ⅰ	1	▲体育実技Ⅱ	1													2		
	情報教育(3)		○●情報処理基礎演習	1	○情報科学の基礎	2	●■情報処理演習	1											4		
	外国語教育(8)		○●英語Ⅰ	2	○●英語Ⅱ	2	○英語Ⅲ	2	○英語Ⅳ	2									8		
キャリア教育(2)		キャリア実習*	1	○キャリアベースック	1			○キャリアデザインⅠ	1									3			
全学共通教育						学外農場実習*	(4)											0			
学群専門導入教育(3)		○●士健民・農畜環境学入門実習	1															3			
		○●建学の精神と農畜環境学概論	2																		
学群専門教育(14)						土壌学	2	▲食品産業論	2	野生動物と社会	2	森林環境学	2	生物地球化学	2			14			
								野生動物学の基礎	2	▲食品流通論	2										
専門演習(8)										○専門ゼミナールⅠ	2	○専門ゼミナールⅡ	2	○卒業研究Ⅰ	2	○卒業研究Ⅱ	2	10			
																	研究発表	2			
専門科目(39)		○農環境情報学概論Ⅰ	2	○農環境情報学概論Ⅱ	2	○▲経済学基礎理論	2	○農業資源経済学	2	○統計データ分析演習	1	○アグリビジネス論	2								
		○GISリモートセンシング基礎	2	○▲経済原論	2	○▲経営学入門	2	○地域経済論	2	農業経営学	2	酪農・畜産経営論	2								
		○資源リサイクルと環境保全	2	○再生可能エネルギー入門	2	○▲社会調査法	2	▲ボランティア活動・NPO・NGO論	2												
		○GIS基礎演習	1	○農畜産物市場論	2	農業機械・施設学	2														
				○農業協同組合論	2																
				▲日本経済論	2																
				GIS応用演習	1																
アグリデザイン領域																		0			
応用科目 地域データサイエンス領域(18)						○プログラミング入門	2	○機械学習入門	2	○画像解析Ⅰ演習	2	○画像解析Ⅱ演習	2	○連携モーターリングとリモートセンシング	2						
						○コンサルティンク実践演習Ⅰ	2	○コンサルティンク実践演習Ⅱ	2	○データサイエンス演習Ⅰ	2	○データサイエンス演習Ⅱ	2								
								○リモートセンシング基礎演習	2												
教職科目		●教職入門	2	●教育原理	2	●特別支援教育論	2	●教育課程論	2	●特別活動論	2	●教育社会学	2	●教育実習(中・高1免)	5	●教職実践演習(中・高1免)	2	41			
				●教育心理学	2	●教育方法・ICT活用論	2	●教育相談論	2	●社会科・公民科教育法Ⅰ	2	●総合的な学習時間の指導法	2								
				●生徒・進路指導論	2	●地誌	2	●社会科教育法Ⅰ(地理歴史)	2	●社会科教育法Ⅱ(地理歴史)	2	●道徳教育指導論	2								
修得単位数																					
共通教育科目(35)		21	16			5	4			1	0			0	0		47				
専門科目(学群専門教育)(14)		0	0			2	4			4	2			2	0		14				
専門科目(専門演習)(8)		0	0			0	0			2	2			2	4		10				
専門科目(専門科目)(39)		4	7			13	8			5	4			0	0		41				
専門科目(応用科目)(18)		0	0			4	6			4	4			0	0		18				
小計		25	23			24	22			16	12			4	4		130				
合計		48				46				28				8			130				
教職科目		2	4			6	6			6	10			5	2		41				

※○必修科目、◎専門領域要修得科目、その他は選択科目、*は集中授業
 ※履修制限：1年次 年間48、半期26、2年次以降 年間46、半期24 ※学外農場実習、教職科目は履修制限対象外科目
 ※科目名にアンダーラインが付く科目(青の網掛)は、主要授業科目である。
 ※●は中学社会の免許状を取得するための必修科目、▲は中学社会の免許状を取得するための選択科目

農環境情報学類 カリキュラム履修モデル (アグリデザイン領域+高校公民)

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数計		
	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位			
共通教育	酪農学園導入教育(5)	○キリスト教Ⅰ	2	○キリスト教Ⅱ	2													5	
		○基礎演習	1																
	人文社会科学教育(6)	○●経済学	2	世界史	2														14
		日本史	2	●●法学	2														
		●●日本国憲法	2	●●哲学	2														
		地理学	2																
	自然科学教育(6)			生物学	2	○統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2									6	
	保健体育教育(2)	○●体育実技Ⅰ	1	▲体育実技Ⅱ	1														2
	情報教育(3)	○●情報処理基礎演習	1	○情報科学の基礎	2	●情報処理演習	1												4
	外国語教育(8)	○●英語Ⅰ	2	○●英語Ⅱ	2	○英語Ⅲ	2	○英語Ⅳ	2										8
キャリア教育(2)	キャリア実習*	1	○キャリアベースシック	1					○キャリアデザインⅠ	1								3	
全学共通教育					学外農場実習*	(4)												0	
学群専門導入教育(3)	○●健康・農畜環境学入門実習	1																3	
	○●建学の精神と農畜環境学概論	2																	
専門教育	学群専門教育(12)			畜産学総論	2	土壌学	2	乳肉科学	2	▲食品流通論	2							14	
						作物生産学Ⅰ	2	▲食品産業論	2										
						▲マーケティング論	2												
	専門演習(8)									○専門ゼミナールⅠ	2	○専門ゼミナールⅡ	2	○卒業研究Ⅰ	2	○卒業研究Ⅱ	2	2	
																		研究発表	2
	専門科目(40)	○●農環境情報学概論Ⅰ	2	○●農環境情報学概論Ⅱ	2	○●▲経済学基礎理論	2	○●農業資源経済学	2	○●統計データ分析演習	1	○●アグリビジネス論	2						
		○●GISリポート・センシング基礎	2	○●▲経済原論	2	○●▲経営学入門	2	○●地域経済論	2	●●国際法	2	●●国際経済論	2						
		○●資源リサイクルと環境保全	2	○●再生可能エネルギー入門	2	○●▲社会調査法	2												
		○●GIS基礎演習	1	○●農畜産物市場論	2	▲●民法・商法	2												
				○●農業協同組合論	2	▲●行政学概論	2												
			○●GIS応用演習	1	▲●簿記・会計学基礎	2													
応用科目	アグリデザイン領域(19)			○●農村社会学	2	○●農業政策学Ⅰ	2	○●農業市場論	2	○●地域計画論	2								
								○●農業政策学Ⅱ	2	○●営農システム論	2								
								○●協同組合学	2	○●アグリデザイン演習	1								
								○●地域連携論	2										
								○●簿記・会計演習	1										
								○●アグリデザイン実習	1										
教職科目	●●教職入門	2	●●教育原理	2	●●特別支援教育論	2	●●教育課程論	2	●●特別活動論	2	●●教育社会学	2	●●教育実習(高1免)	3	●●教職実践演習(中・高1免)	2		31	
			●●教育心理学	2	●●教育方法・ICT活用論	2	●●教育相談論	2	●●社会科・公民科教育法Ⅰ	2	●●総合的な学習時間の指導法	2							
					●●生徒・進路指導論	2			●●社会科・公民科教育法Ⅱ	2									
修得単位数																			
共通教育科目(35)		19	16	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45		
専門科目(学群専門教育)(12)		0	2	6	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
専門科目(専門演習)(8)		0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10		
専門科目(専門科目)(40)		4	7	11	12	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41		
専門科目(応用科目)(19)		0	0	2	2	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19		
小計		23	25	24	22	18	11	2	4	2	4	2	2	2	2	2	129		
合計		48		46		29		6		3		2		2		129			
教職科目		2	4	6	4	4	6	3	2								31		

※○必修科目、◎専門領域要修得科目、その他は選択科目、*は集中授業
 ※履修制限：1年次 年間48、半期26、2年次以降 年間46、半期24 ※学外農場実習、教職科目は履修制限対象外科目
 ※科目名にアンダーラインが付く科目(青の網掛)は、主要授業科目である。
 ※●は高校公民の免許状を取得するための必修科目、▲は高校公民の免許状を取得するための選択科目

農環境情報学類 カリキュラム履修モデル (地域データサイエンス領域+高校公民)

	1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数				
	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位	前学期	単位	後学期	単位					
共通教育	酪農学園導入教育(5)		○キリスト教Ⅰ	2	○キリスト教Ⅱ	2												5			
			○基礎演習	1																	
	人文社会科学教育(6)		○●経済学	2	●●法学	2													10		
			●●日本国憲法	2	●●哲学	2															
			地理学	2																	
	自然科学教育(6)		数学Ⅰ	2	数学Ⅱ	2	○統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2									10		
					生物学	2															
	保健体育教育(2)		○●体育実技Ⅰ	1	▲体育実技Ⅱ	1													2		
	情報教育(3)		○●情報処理基礎演習	1	○情報科学の基礎	2	●情報処理演習	1											4		
	外国語教育(8)		○●英語Ⅰ	2	○●英語Ⅱ	2	○英語Ⅲ	2	○英語Ⅳ	2									8		
キャリア教育(2)		キャリア実習*	1	○キャリアベースシック	1			○キャリアデザインⅠ	1									3			
全学共通教育						学外農場実習*	(4)											0			
学群専門導入教育(3)		○●士健民・農食環境学入門実習	1															3			
		○●建学の精神と農食環境学概論	2																		
学群専門教育(14)						土壌学	2	▲食品産業論	2	野生動物と社会	2	森林環境学	2	生物地球化学	2			14			
						▲マーケティング論	2			▲食品流通論	2										
専門演習(8)										○専門ゼミナールⅠ	2	○専門ゼミナールⅡ	2	○卒業研究Ⅰ	2	○卒業研究Ⅱ	2	10			
																	研究発表		2		
専門科目(39)		○農環境情報学概論Ⅰ	2	○農環境情報学概論Ⅱ	2	○▲経済学基礎理論	2	○農業資源経済学	2	○統計データ分析演習	1	○アグリビジネス論	2					41			
		○GISリポートゼンシツ基礎	2	○▲経済原論	2	○▲経営学入門	2	○地域経済論	2	●国際法	2	●国際経済論	2								
		○資源リサイクルと環境保全	2	○再生可能エネルギー入門	2	○▲社会調査法	2	▲ポランディア活動・NPO・NGO論	2												
		○GIS基礎演習	1	○農畜産物市場論	2	▲民法・商法	2														
				○農業協同組合論	2	▲行政学概論	2														
				GIS応用演習	1																
アグリデザイン領域																		0			
応用科目 地域データサイエンス領域(18)						○プログラミング入門	2	○機械学習入門	2	○画像解析AI演習	2	○連携モータリングとリモートセンシング	2					18			
						○コンサルティンク実践演習Ⅰ	2	○コンサルティンク実践演習Ⅱ	2	○データサイエンス演習Ⅰ	2	○データサイエンス演習Ⅱ	2								
								○リポートゼンシツ基礎演習	2												
教職科目		●教職入門	2	●教育原理	2	●特別支援教育論	2	●教育課程論	2	●特別活動論	2	●教育社会学	2	●教育実習(高1 3 3)	●教職実践演習(中・高1免)	2		31			
				●教育心理学	2	●教育方法・ICT活用論	2	●教育相談論	2	●社会科・公民科教育法Ⅰ	2	●総合的な学習時間の指導法	2								
						●生徒・進路指導論	2					●社会科・公民科教育法Ⅱ	2								
修得単位数																					
共通教育科目(35)		19	16	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45				
専門科目(学群専門教育)(14)		0	0	4	2	4	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	14				
専門科目(専門演習)(8)		0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	4	4	0	0	10				
専門科目(専門科目)(39)		4	7	11	10	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41				
専門科目(応用科目)(18)		0	0	4	6	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18				
小計		23	23	24	22	16	12	4	4	4	4	4	0	0	0	0	128				
合計		46	46	46	46	28	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	128				
教職科目		2	4	6	4	4	6	3	2	3	2	3	2	3	2	3	31				

※○必修科目、◎専門領域要修得科目、その他は選択科目、*は集中授業
 ※履修制限：1年次 年間48、半期26、2年次以降 年間46、半期24 ※学外農場実習、教職科目は履修制限対象外科目
 ※科目名にアンダーラインが付く科目(青の網掛)は、主要授業科目である。
 ※●は高校公民の免許状を取得するための必修科目、▲は高校公民の免許状を取得するための選択科目

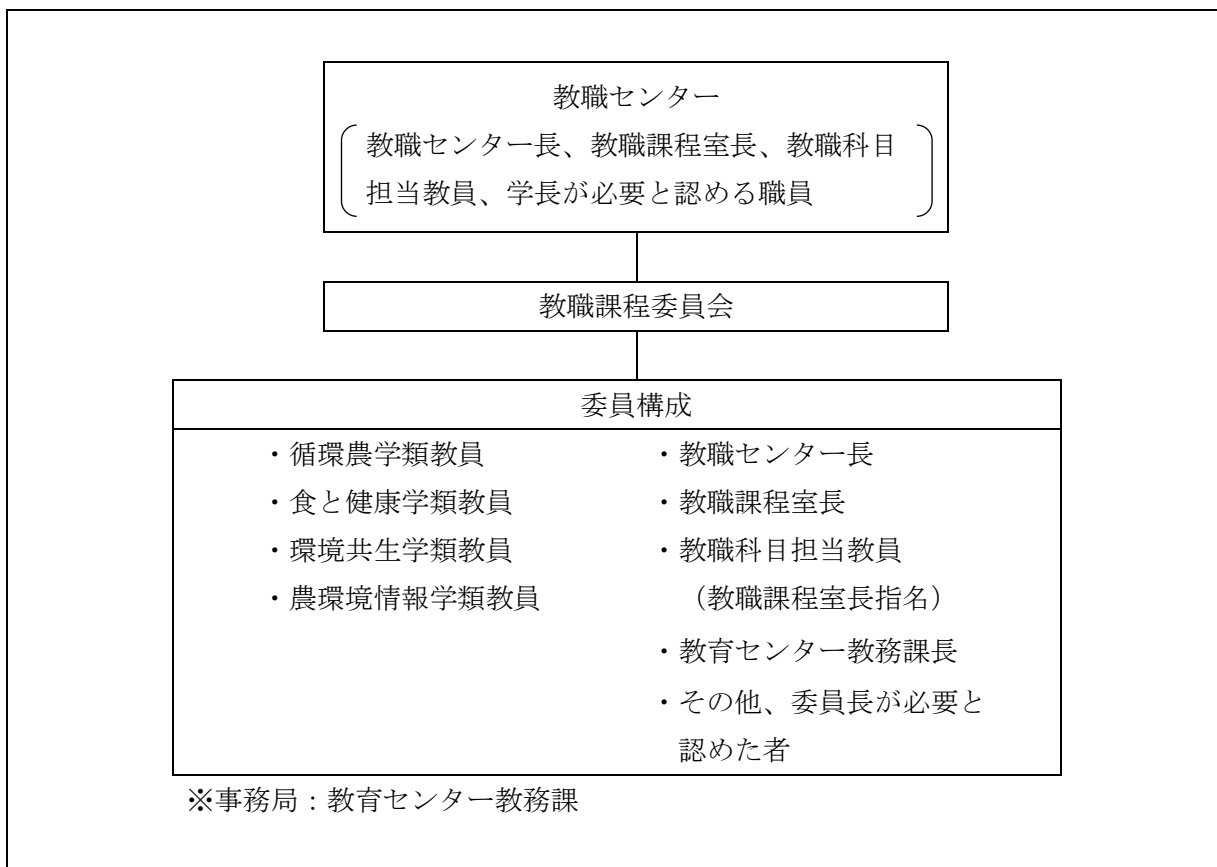
I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	①教職センター
目的：	<p>教職課程及び教員養成に係わる教育を充実させ、学生がもつ諸問題について相談・指導を行うこと目的とする。</p> <p>教職センターでは、この目的を達成するために、次の業務を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中学校教諭及び高等学校教諭普通免許状を取得しようとする学群・大学院学生等の教育及び相談・指導に関する事項 2) 教職課程の編成並びに運営に関する事項 3) 教育実習及び介護体験に関する事項 4) 教員免許状授与に関する事項 5) 教員養成に係わる各種講座の企画に関する事項 6) 教職に係わる資料の収集・情報提供に関する事項 7) 教職に係わる研究及び調査に関する事項 8) 現職教員の研修に関する事項 9) 教職センターの予算に関する事項 10) その他教職センターの目的達成のために必要な事項
責任者：	教職センター長
構成員(役職・人数)：	教職センター長(1名)、教職課程室長(1名)、教職に関する科目を担当する教員(3名) 合計5名のほか、学長が必要と認める職員を置くことができる。
運営方法：	教職センターにおける定期的な会議(打ち合わせ)のほか、同センター内に②「教職課程委員会」を設置し、上記に記載した業務の円滑な推進に向けた協議を行う。なお、教職センターの事務は、教育センター教務課において処理している。
組織名称：	②教職課程委員会
目的：	<p>本委員会は、本学における教職課程の充実を図り、その全学的運営を円滑にするため、①に記載する教職センター業務に関する基本的な事項について協議することを目的として設置する。</p> <p>教職課程委員会は、次の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教職課程のカリキュラムに関する事項 2) 教職課程の教育・研究に関する事項 3) 教職課程の運営に関する事項 4) 教職センターの運営に関する事項 5) その他教職課程に関する事項
責任者：	委員長(教職センター長)
構成員(役職・人数)：	教職センター長(1名)、教職課程室長(1名)、教職に関する科目担当で、常勤の教授、准教授、講師及び助教のうち、教職課程室長が指名した教員(1名)、循環農学類、食と健康学類、環境共生学類、農環境情報学類から選出された教員(各1名)、教育センター教務課長(1名) 合計8名のほか、委員長が必要と認めた者を置くことができる。

運営方法：委員会に委員長（教職センター長）及び副委員長（教職課程室長）を置き、委員長が委員会を招集して、上記に記載した審議事項について協議を行う。なお、教職課程委員会の事務局は、教育センター教務課とし、委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、審議事項に関する説明又は意見を聴取することができるほか、委員会には、特定の事項について調査・研究するため、小委員会を設置することができる。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

○北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会への参加

北海道教育委員会が主管となり、教職課程を持つ道内の大学や市町村教育委員会、小・中・高・特別支援の校長会等の代表が集まり、教員の採用選考方法等を協議する。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： ①「江別市」学生ボランティア事業

連携先との調整方法： 江別市教育委員会学校教育課（学校支援地域本部コーディネーター）とメール及び電話で連絡調整を行う。

具体的な内容： 江別市教育委員会が実施する「学生ボランティア事業」に応募する学生を学内で募り、取りまとめた応募者情報を江別市教育委員会学校教育課に送付する。派遣対象校は江別市内の小中学校であり、派遣先では、児童生徒の学習サポートや部活動補助等を行う。

取組名称：	②学生ボランティア事業
連携先の調整方法：	江別市教育委員会教育支援課とメール及び対面で連絡調整を行う。
具体的な内容：	江別市教育委員会教育支援課教育支援センター「ねくすと」に通う児童生徒への学習ボランティアに参加し、学習支援をとおして、児童生徒の学力向上に寄与するほか、コミュニケーション能力及び、社会性の伸長に貢献している。 参加学生の募集と連絡方法は、年度はじめに本学学長宛にボランティアの依頼があり、(江別市)教育支援センター職員と大学担当教員とでメール及び対面での打ち合わせを行った上で、学生に呼びかけを行い、実際に数名の学生が参加している。
取組名称：	③不登校児童生徒への支援事業
連携先の調整方法：	江別市教育委員会教育支援課とメール及び対面で連絡調整を行う。
具体的な内容：	江別市教育委員会教育支援課教育センター「ねくすと」に通う児童生徒対象の農業体験交流会を年3回本学で実施している。 野菜・作物・花卉類の播種から栽培、収穫を体験。収穫した野菜作物を調理・加工し、花卉類はハーバリウムを製作する。年度当初に、学生が自ら教育支援センター職員と打ち合わせを行い、要望や計画内容を検討・決定する。
取組名称：	④長沼町のまちづくりに係る講演会
連携先の調整方法：	長沼町政策推進課とメール及び電話で連絡調整を行う。
具体的な内容：	本学と連携協定を締結している長沼町に依頼して実施している。学校と地域社会が連携・協働しながら、より良い社会を創ることを目指す教材を、学生が自らつくる基礎学習とすることを目的としている。地域の取組の一例として、長沼町のまちづくりに関する講演や指導助言をいただく。
取組名称：	⑤釧路湖陵高等学校生物特別実習
連携先の調整方法：	釧路湖陵高等学校担当教員とメール及び電話で連絡調整を行う。
具体的な内容：	医進類型指定校及びスーパーサイエンスハイスクール指定校である北海道釧路湖陵高等学校が実施する「生物特別実習」に対して、講師として教員及び学生の派遣を行っている。生物特別実習の内容は、ブタの内臓一式の観察を通して哺乳類のからだのつくりについて考えるというものであり、獣医師免許を持つ教職科目担当教員と理科教員を目指す学生を派遣している。

Ⅲ. 教職指導の状況

教職センターでは、教職を目指す学生に対して、学習指導や支援のほか、特別講義や研修を実施するなど、教職を目指す学生の学びを全面的にバックアップしている。

教職科目担当教員は、教職に関する研究を行っており、学生に対して、各学校の授業やイベント、附属高校等と連携した実践的な教育活動への参加機会の提供、また、教員採用試験に向けた勉強会などを開催し、教員として必要な力を身につけるためのサポートを積極的に行っている。

また、教職課程室には、各種教科書のほか、教育関連図書や資料を備え、学生が閲覧できる環境を整えており、教員採用に向けた講習会の案内や全国の教員採用にかかわる情報を適時提供している。

様式第7号ウ

＜農環境情報学類＞（認定課程：中一種免（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●本学の設置理念(建学の精神等)を理解し、本学が養成する教師像を理解する。 ●グループでの作業を通して、チームワークの重要性を認識する。 ●教職課程を履修する意義を理解する。 ●教職に就くために必要とされる資質、適性について理解する。 ●社会科教員として必要な教養を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して社会科教員として必要な教養を身につける。 ●教育がどのような「理念」と「仕組み」の中で、どのように機能しているかを理解する。 ●教育心理学の基本的知識である「発達」「学習」「記憶」「動機づけ」を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して社会科教員として必要な教養を身につける。 ●特別支援教育についての知識を学び、障害により支援を必要とする幼児、児童生徒に対応できる基本的な力を身につける。 ●学習と教育に関する基礎的な理論及び実践例を理解し、資質・能力を育成するための基本的な指導法を身につける。 ●ICTを教育現場で効果的に活用するための知識・技能を身につける。 ●生徒理解の方法(カウンセリングマインド等)と意義を理解し、教育相談に対応できる基礎的な力を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して社会科教員として必要な教養を身につける。 ●学校教育において教育課程がもつ意義や役割を理解する。 ●学習指導要領を基準とする教育課程の意義や機能を理解する。 ●学校における適切な「教育相談」の指導のための資質と能力(マナー、理論、方法等)を身につける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●特別活動の特性や重要性、指導の在り方について体系的に理解する。 ●学校現場で特別指導を効果的に実践し、生徒の生きる力を育む教育に寄与できる態度を身につける。 ●中学校社会科・高校地理歴史科の教員についての基本的知識を学ぶとともに、授業内容や方法に関しての授業実践例を身につける。 ●コミュニケーションスキル、情報リテラシーを身につける。 ●中学校社会科・高校公民科(公共、倫理、政治経済)の教育内容を理解し、自分がこれまで学んだ知識を応用し、関連づける力を身につける。 ●主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に対する知識・技能を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の健全な育成を図るために、地域との連携が重要であることを理解する。 ●道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ●教科の横断的・総合的な学習や探求的な学習を理解するとともに、学び方やものの考え方を身につける。 ●社会科の授業の中で用いるグループ学習などの授業改善の手法について実践的に学び身につける。 ●教材研究の方法やICT技術の活用及びグループ討議などの授業手法を研究し、教育現場で必要とされる生徒の学習意欲を向上させる授業展開ができる力を身につける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●教員の社会的な役割と責任を理解するとともに、教員として生徒を指導する上で必要な知識・技能、実践力を身につける。 ●教育現場で求められるマナー、姿勢について理解するとともに、模擬授業等をおして、適切な教科指導及び生徒指導を行うことができる。 ●大学教育の中で培ってきた自己の専門分野と、学校現場での教育実践とを結びつけた授業計画を立案することができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの教職課程での学習を振り返り、自身の成果と課題を分析することで、課題克服のための実践的な知識と技能を身につける。 ●教育職に必要な使命感や責任感、教育的な愛情表現、また、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営に関する力量のほか、教科等の指導力、プレゼンテーション資料の作成及びその報告能力と態度を身につける。 ●基礎的な社会の仕組みを学び、多角的な視点をもつことができる。 ●地域社会の中での密接なコミュニケーションを図り、情報を用いて地域社会の現状を把握することができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜農環境情報学類＞（認定課程：中一種免許（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	日本国憲法		日本国憲法	健土健民・農食環境学入門実習
			日本史		体育実技 I	建学の精神と農食環境学概論
			地理学		英語 I	農環境情報学概論 I
			経済学		情報処理基礎演習	GISリモートセンシング基礎
	後期	教育原理	世界史		運動の科学	農環境情報学概論 II
		教育心理学	法学		英語 II	GIS基礎演習
			哲学			
			社会学			
		経済原論				
2年次	前期	特別支援教育論	経済学基礎理論		情報処理演習	
		教育方法・ICT活用論	経営学入門			
		生徒・進路指導論	日本経済論			
	後期	教育課程論	地誌			地域経済論
		教育相談論	社会調査法			
3年次	前期	特別活動論				専門ゼミナール I
		社会科・地理歴史科教育法 I				地域連携論
		社会科・公民科教育法 I				
	後期	教育社会学				専門ゼミナール II
		道徳教育指導論				
		総合的な学習の時間の指導法				
		社会科・地理歴史科教育法 II				
		社会科・公民科教育法 II				
4年次	前期	教育実習（中・高1免）				卒業研究 I
	後期	教職実践演習（中・高1免）				卒業研究 II

様式第7号ウ

＜農環境情報学類＞（認定課程：高一種免（公民））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●本学の設置理念(建学の精神等)を理解し、本学が養成する教師像を理解する。 ●グループでの作業を通して、チームワークの重要性を認識する。 ●教職課程を履修する意義を理解する。 ●教職に就くために必要とされる資質、適性について理解する。 ●公民科教員として必要な教養を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して公民科教員として必要な教養を身につける。 ●教育がどのような「理念」と「仕組み」の中で、どのように機能しているかを理解する。 ●教育心理学の基本的知識である「発達」「学習」「記憶」「動機づけ」を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して公民科教員として必要な教養を身につける。 ●特別支援教育についての知識を学び、障害により支援を必要とする幼児、児童生徒に対応できる基本的な力を身につける。 ●学習と教育に関する基礎的な理論及び実践例を理解し、資質・能力を育成するための基本的な指導法を身につける。 ●ICTを教育現場で効果的に活用するための知識・技能を身につける。 ●生徒理解の方法(カウンセリングマインド等)と意義を理解し、教育相談に対応できる基礎的な力を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して公民科教員として必要な教養を身につける。 ●学校教育において教育課程がもつ意義や役割を理解する。 ●学習指導要領を基準とする教育課程の意義や機能を理解する。 ●学校における適切な「教育相談」の指導のための資質と能力(マナー、理論、方法等)を身につける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して公民科教員として必要な教養を身につける。 ●特別活動の特性や重要性、指導の在り方について体系的に理解する。 ●学校現場で特別指導を効果的に実践し、生徒の生きる力を育む教育に寄与できる態度を身につける。 ●中学校社会科・高校公民科(公共、倫理、政治経済)の教育内容を理解し、自分がこれまで学んだ知識を応用し、関連づける力を身につける。 ●主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に対する知識・技能を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して公民科教員として必要な教養を身につける。 ●生徒の健全な育成を図るために、地域との連携が重要であることを理解する。 ●教科の横断的・総合的な学習や探求的な学習を理解するとともに、学び方やものの考え方を身につける。 ●公民科の授業の中で用いるグループ学習などの授業改善の手法について実践的に学び身につける。 ●教材研究の方法やICT技術の活用及びグループ討議などの授業手法を研究し、教育現場で必要とされる生徒の学習意欲を向上させる授業展開ができる力を身につける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ●教員の社会的な役割と責任を理解するとともに、教員として生徒を指導する上で必要な知識・技能、実践力を身につける。 ●教育現場で求められるマナー、姿勢について理解するとともに、模擬授業等をおして、適切な教科指導及び生徒指導を行うことができる。 ●大学教育の中で培ってきた自己の専門分野と、学校現場での教育実践とを結びつけた授業計画を立案することができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの教職課程での学習を振り返り、自身の成果と課題を分析することで、課題克服のための実践的な知識と技能を身につける。 ●教育職に必要な使命感や責任感、教育的な愛情表現、また、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営に関する力量のほか、教科等の指導力、プレゼンテーション資料の作成及びその報告能力と態度を身につける。 ●社会参加や現代社会の課題に焦点を当て、実践的な知識を深めることができる。 ●社会調査の手法により、情報を収集し、その情報を用いて地域社会の現状を把握し、地域社会の振興方策を企画・提案することができる。

様式第7号ウ（教諭）

<農環境情報学類>（認定課程：高一種免許（公民））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	日本国憲法		日本国憲法	健土健民・農食環境学入門実習
			経済学		体育実技Ⅰ	建学の精神と農食環境学概論
					英語Ⅰ	農環境情報学概論Ⅰ
					情報処理基礎演習	
	後期	教育原理	法学		運動の科学	農環境情報学概論Ⅱ
		教育心理学	哲学		英語Ⅱ	
			社会学			
		経済原論				
2年次	前期	特別支援教育論	経済学基礎理論		情報処理演習	
		教育方法・ICT活用論	経営学入門			
		生徒・進路指導論	マーケティング論			
			日本経済論			
	後期	教育課程論	社会調査法			地域経済論
		教育相談論	民法・商法			
		行財政学概論				
3年次	前期	特別活動論	国際法			専門ゼミナールⅠ
		社会科・公民科教育法Ⅰ	ボランティア活動・NPO・NGO論			地域連携論
	後期	教育社会学	国際経済論			専門ゼミナールⅡ
		総合的な学習の時間の指導法	キリスト教と生命倫理			地域計画論
		社会科・公民科教育法Ⅱ				
4年次	前期	教育実習（高1免）				卒業研究Ⅰ
	後期	教職実践演習（中・高1免）				卒業研究Ⅱ

様式第7号ウ

＜農環境情報学類＞（認定課程：高一種免（農業））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学の設置理念(建学の精神等)を理解し、本学が養成する教師像を理解する。 ● グループでの作業を通して、チームワークの重要性を認識する。 ● 教職課程を履修する意義を理解する。 ● 教職に就くために必要とされる資質、適性について理解する。 ● 農業科教員として必要な教養を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続して農業科教員として必要な教養を身につける。 ● 教育がどのような「理念」と「仕組み」の中で、どのように機能しているかを理解する。 ● 教育心理学の基本的知識である「発達」「学習」「記憶」「動機づけ」を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続して農業科教員として必要な教養を身につける。 ● 特別支援教育についての知識を学び、障害により支援を必要とする幼児、児童生徒に対応できる基本的な力を身につける。 ● 学習と教育に関する基礎的な理論及び実践例を理解し、資質・能力を育成するための基本的な指導法を身につける。 ● ICTを教育現場で効果的に活用するための知識・技能を身につける。 ● 生徒理解の方法(カウンセリングマインド等)と意義を理解し、教育相談に対応できる基本的な力を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続して農業科教員として必要な教養を身につける。 ● 学校教育において教育課程がもつ意義や役割を理解する。 ● 学習指導要領を基準とする教育課程の意義や機能を理解する。 ● 学校における適切な「教育相談」の指導のための資質と能力(マナー、理論、方法等)を身につける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続して農業科教員として必要な教養を身につける。 ● 特別活動の特性や重要性、指導の在り方について体系的に理解する。 ● 学校現場で特別指導を効果的に実践し、生徒の生きる力を育む教育に寄与できる態度を身につける。 ● 農業高校の実態や高校生の現状を把握し、教育現場の課題や問題点を解決するための実践的な指導力を身につける。 ● 教科「農業」の教育目標を明確に自覚でき、背景となる栽培・飼育や加工・調製、販売等の学問領域を理解し、具体的な指導を想定した授業(実習含む)設計ができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続して農業科教員として必要な教養を身につける。 ● 生徒の健全な育成を図るために、地域との連携が重要であることを理解する。 ● 教科の横断的・総合的な学習や探求的な学習を理解するとともに、学び方やものの考え方を身につける。 ● 前期に習得した知識・技術を活用し、授業の組み立てと展開について、模擬授業をとおして教科指導力を身につける。 ● 農業に関する基礎的・基本的な教授法を身につけることにより、学習することの楽しさを生徒に伝えることができる。 ● 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業展開ができる。 ● 農業科教員として、教育現場及び地域で活躍できる教員となれる資質と能力を身につける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の社会的な役割と責任を理解するとともに、教員として生徒を指導する上で必要な知識・技術、実践力を身につける。 ● 教育現場で求められるマナー、姿勢について理解するとともに、模擬授業等をとおして、適切な教科指導及び生徒指導を行うことができる。 ● 大学教育の中で培ってきた自己の専門分野と、学校現場での教育実践とを結びつけた授業計画を立案することができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの教職課程での学習を振り返り、自身の成果と課題を分析することで、課題克服のための実践的な知識と技能(技術)を身につける。 ● 教育職に必要な使命感や責任感、教育的な愛情表現、また、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営に関する力量のほか、教科等の指導力、プレゼンテーション資料の作成及びその報告能力と態度を身につける。 ● 「農業」「食」「環境」に関する実践的な専門知識を学び、地域社会との関わりを深めることができる。 ● 農業分野におけるデータサイエンス・DX(デジタルトランスフォーメーション)の活用、資源の効率的な管理と利用の促進など、先進技術の導入と農業経営の関係についての知識を深めることができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜農環境情報学類＞（認定課程：高一種免許（農業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	健土健民・農食環境学入門実習		日本国憲法	建学の精神と農食環境学概論
					体育実技 I	農環境情報学概論 I
					英語 I	
					情報処理基礎演習	
	後期	教育原理	畜産学総論		運動の科学	農環境情報学概論 II
		教育心理学	資源リサイクルと環境保全		英語 II	
2年次	前期	特別支援教育論	土壌学		情報処理演習	
		教育方法・ICT活用論	作物生産学 I			
		生徒・進路指導論	再生可能エネルギー入門			
			農畜産物市場論			
			農業協同組合論			
	後期	教育課程論	園芸生産学 I			農業資源経済学
		教育相談論	乳肉科学			
			草地・飼料作物学			
			農業機械・施設学			
	3年次	前期	特別活動論	農業経営学		
農業科教育法 I			職業指導 I（農業）			地域連携論
			アグリデザイン実習			バイオマス技術入門
後期		教育社会学	職業指導 II（農業）			専門ゼミナール II
		総合的な学習の時間の指導法	アグリビジネス論			
		農業科教育法 II	地域計画論			
4年次	前期	教育実習（高1免）				卒業研究 I
	後期	教職実践演習（中・高1免）				卒業研究 II